

---

## 活動紹介

---

## へいじろう編集委員より

地域医療連携室 坂口 健

年報誌『飛魚』の小型版として、年に4回広報誌『へいじろう』を発刊しております。平成19年6月1日の創刊号から10年、これまでに41号を発刊しました。院内講演会・院内部活紹介・新入職員紹介・各科診療予定・患者様から頂いた短歌・詩など様々な記事を掲載しています。より地域に密着した医療機関を目指すこと、そして島民の皆様はもちろんのこと、島外在住の皆様にも当院をもっともっと知って頂くことを常に意識しながら、活きの良い「へいじろう」の如く、より新鮮な情報を皆様に発信できるように、これからも取り組んでいきます。

※「広報誌へいじろう」は、当院ホームページよりご覧いただけます。

### 【編集委員】

川畑真由子（リハビリテーション室）  
 貴島 知世（リハビリテーション室）  
 加世田和博（地域医療連携室）  
 坂口 健（地域医療連携室）

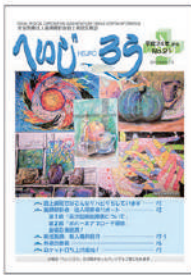




第19号



第20号



第21号



第22号



第23号



第24号



第25号



第26号



第27号



第28号



第29号



第30号



第31号



第32号



第33号



第34号



第35号



第36号



第37号



第38号



第39号



第40号



第41号



第42号

## 種子島鉄砲まつり

平成28年8月20日(日)今年で48回目になる、種子島鉄砲祭りが開催されました。当日の天気は快晴で鉄砲音頭のスタート地点である八坂神社は日陰で待機する人たちであふれていました。

種子島鉄砲祭りは鉄砲伝来(1543年)を記念して毎年開催されるお祭りです。種子島火縄銃保存会、友好都市である大阪府堺市の堺火縄銃保存会、滋賀県長浜市の国友鉄砲研究会の3団体による豪快な火縄銃の試射は迫力満点です。午前中は太鼓山、女山車、子供山が町中を練り歩き、午後には南蛮行列や団体手踊りも行われ、祭りを盛り上げました。当日の夜には演芸大会も行われ、夜には約4000発の花火がクライマックスを彩ります。

私にとって鉄砲祭りは初めてで、種子島医療センターの職員で南蛮行列、手踊りに参加しました。手踊りの練習を1週間前に行っただけだったので、振りをみんなで確かめ合いながらスタートを待ちました。行列の先頭ははるか先で、スタートの合図がなってからだいぶ時間が経ち、一つ前の団体が進み始めて「遂に始まった」と非常に緊張したのを覚えています。

踊り始めてからは、前で踊っている人の真似をしながら踊りの振りを思い出そうと必死でしたので、周りは全然見えていませんでした。

リハビリテーション室 理学療法士 内村 寿夫

た。しかし鉄砲音頭と振りがとても合っていて、慣れるのに時間はかかりませんでした。それからは踊っている人たちの活気、街中にたくさんの方々が見に集まっておられるのを見て暑さに負けそうな私を鼓舞してくれました。無事、ゴール地点まで踊りきった時には心地いい疲労感と達成感で鉄砲祭りってとても楽しいと思いました。

入院している患者様にも、鉄砲祭りに参加してきましたと報告すれば皆さん笑顔で「どうだった?楽しかった?」と聞いてくださるので鉄砲祭りは島民の心に深く根付いているものだと感じました。これからも私は毎年鉄砲祭りを夏の楽しみにして種子島で過ごしていきたいと思います。

## 種子島医療センターサーフィン部 (TSC)

種子島と私達TSC (Tanegashima medical center Surfing Club) についてご紹介させていただきます。

種子島は、九州本土最南端の佐多岬から約40kmに位置し、南北58km、東西5km～12kmの細長い形をした、周囲約160kmの文字通り種の形をした離島です。横浜市ほどの面積に、西之表市、中種子町、南種子町の1市2町、約3万人の人口からなります。

南北に細長く、リーフ(岩礁)からビーチまで地形のバリエーションに富み、太平洋から東シナ海まで15分で移動できるこの島は、ほぼ毎日島のどこかで波が立ちサーフィンができる環境があります。サーファーの間では古くから有名で、国内外から多くのサーファー達が訪れており、2020年オリンピック種目に決定して以降はTVの取材も増え、サーフィンの聖地として広く知られるようになってきました。

私の所属しているリハビリテーション室の業務開始は毎朝8時30分です。5月から10月までの間、毎朝5時～6時に海に入ります。海に行けばTSCのメンバーがいて、7時までは海には行ってから出勤します。仕事を17時に終え、また2時間ほど波を探しに出ます。

リハビリの前後、窓の外に見える中学校の校旗の向きから風向きを、東シナ海側に見える港の白波から波高を感じ、月齢から干満の時間を予想し、仕事後のポイントを考えてしまっていたりします。(仕事は一生懸命しています！)

風向きに応じ東西の行き来ができ、潮位に応じてポイントを選ぶことができるこの島は、仕事と波乗りを両立するには最高の場所だと言えます。

近づく低気圧に胸躍らせ、雷には人一倍恐れおののくのがTSCメンバーの習性です。サーフィンを通し職場内外での関わりが増え、リハビリ、看護師、MSW、医師その他多くの方々

リハビリテーション室 言語聴覚士 武石 久雄

と横のつながりができました。プライベートが充実し、今大きな財産になっています。最近では、派遣看護師として波を求めて当院で勤務する方も増えてきました。

TSCは現在男女30名ほどで構成されており、田上寛容理事長を筆頭に病院内のほぼ全ての職種で構成されています。普段から年齢や職種に関係なく波情報を共有し、時に叱咤し合いながら、海での楽しい時間を過ごすチームです。全員で海に入ることはなかなかできませんが、時期が来るとそれぞれ「そろそろ寄ろうてやろうわい(集まって飲もう!)」と言い始め、飲み会が企画されます。自然と皆が集まりたくなる、素敵なチームです。

また、時には自分を見つめなおす機会として撮影会を行うこともあります。先日開かれたサーフィン大会の一つ、甘露杯ではSUP部門3位、シニアクラス準優勝、オープンクラス優勝をTSCメンバーから出し、大会にも名前を残すことができました。

サーフィンが好きな方、興味をお持ちの方、是非この種子島で、TSCで多くの仲間と楽しいサーフィンライフを作ってくださいませんか!?

お待ちしております!



## 新入職員研修

看護部長 戸川 英子

日時；平成28年4月6日、7日の2日間

時間：9時～12時

場所：当院4F大会議室

対象者：看護師2名 理学療法士2名  
作業療法士1名 言語聴覚士1名  
臨床工学技士1名 放射線技士1名

平成28年度は8名の上記職種の新入職員が種子島医療センターの仲間に加わりました。皆さん、一人ひとりの笑顔がとてもフレッシュで、新人を迎える職場も毎年この季節は活気づいています。

別紙要綱での2日間にわたる研修を終えたのちは、各職場でのプログラムに基づいた研修が開始されます。社会人として、種子島医療センターの職員として自覚と責任ある行動を実践してくれるものと期待します。私たちが共に成長していきたいと思っております！今後ともよろしくお祈りいたします。

### 平成28年度 新入職員全体研修

研修目的；種子島医療センターとしての自覚を養うとともに、早期に職場に順応する。

- 目標；
- 1、病院・各部署の概要を知る。
  - 2、病院職員としての誇りを持ち意欲を高めることができる。
  - 3、病院職員としての責任・協調性・チームワークの重要性を認識して、相互の連帯感を深めることができる。
  - 4、医療チームの一員としての必要な知識・技術を習得する。

月日	時間	研修内容	担当者
4/6	9:00～	新規採用者研修オリエンテーション 辞令交付式 理事長挨拶 辞令交付 採用者自己紹介 院長「講話」	事務長 古元康徳 理事長 田上寛容 病院長 高尾尊身 病院長 高尾尊身
	～10:00		
	10:00～11:30	『労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識』 労働関係法令、労働契約、就業規則、労働時間・休憩・時間外勤務、休日・年休、安全配慮義務、出差・育児・介護休暇、人事考課、職場で生じる問題と対処	石井社会保険労務士事務所 社会保険労務士 石井啓一
	11:30～12:00	個人情報保護について	
	12:00～12:30	種子島医療センター紹介 入職に対する事務手続	事務長 古元康徳
月日	時間	研修内容	担当者
4/7	9:00～9:30	写真撮影・飛魚原様作成	看護部長 山口智代子
	9:30～11:00	接遇	Right-Hand株式会社 宮里一葉
	11:00～11:30	医療安全対策について	副看護部長 戸川英子
	11:30～12:00	産業廃棄物適正処理について ～医療廃棄物取り扱い～	特別管理産業廃棄物管理責任者 宮里浩一
	12:00～12:30	院内感染対策	院内感染対策委員 遠藤慎幸



## 医療職体験フォーラム・ふれあい看護体験

看護局長 山口 智代子

毎年、「看護の日」制定記念事業の一つとして、希望者に実際の看護体験をしていただき、患者さんとのふれあいを通して看護する事や人の命について理解と関心を深める機会として「ふれあい看護体験」を実施しております。平成28年度は、看護職の体験希望の、高校生22名の参加がありました。今回の体験を通して将来の職業を思い描くことが出来たのではないかと思います。(平成28年7月23日実施)

### (タイムスケジュール)

- 9:00 集合  
病院紹介・看護職の紹介  
記念撮影
- 10:00 看護職体験
- 12:00 職員食堂で昼食  
看護職体験
- 15:00 感想・意見交換
- 16:00 終了  
(職業体験スタート)



薬の確認は慎重に！



ふれあい看護体験の説明



患者様とコミュニケーション



検温の見学





担当看護師さんと一緒に・・・



全員で記念撮影



沢山の事を体験しました。



使用後の整理整頓は、次への準備。

私は今、学校の授業がとても長く感じますが、今日は時間があっという間ですごく忙しくてバタバタでした。体力も学力も精神力も必要な仕事を毎日こなす看護師さんが、とてもカッコよく見えました。

今日は、初めて看護師の体験をして、いろいろな事を知ることが出来ました。とてもビックリした事がありました。うがいの出来ない患者さんの口の中を拭くのは、とてもビックリしました。口の中をゆすがないだけで、菌が発生して、病気になると聞き驚きました。

今回のふれあい看護体験で、看護師の良さを体で実感する事が出来ました。足の裏がすごく痛いし、忙しくて大変な部分も分かりました。でも、その分やりがいも大きいと思いました。患者の笑顔やありがとうという言葉にとっても癒されました。

ふれあい看護体験を通し、感じたことは、とても疲れたです。きっと、今日の体験は、本当の看護師の皆さんの百分の一の仕事もしていないのだろうと思います。それなのに気力も体力も看護師の皆さんと比べまったくないのだなと痛感させられました。

私がこのふれあい看護体験をしてみて思った事は、ずっと立っているということはすごく大変なのだという事です。看護師さん達は、休む暇もほとんどなく、ずっと忙しく大変そうで、私の倍は歩き回っているのを見てすごいと思いました。患者様と関わる時は、ずっと笑顔で楽しくお話ししていました。そんな看護師さんを見て私も改めて看護師になりたいと心から思えました。



## 「第1回つながる想い in かごしま」に参加して

地域医療連携室 坂口 健

開催日時；平成28年5月14日（土）12時30分～21時

開催場所；鹿児島市立病院多目的ホール・隣接する上荒田の杜公園

鹿児島県では、NPO法人がんサポートかごしまが中心となり、2009年より5年間にわたり「つながろう！命のリレー」、2013年より全国にならって「リレー・フォー・ライフ・ジャパン in かごしま」を開催してきた。

そして、2016年から鹿児島県のがん患者様とご家族のためのイベントとして、『第1回つながる想い in かごしま』として新たにスタートした。

### ▽講演『がん情報のホントと嘘』

日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科教授 勝俣範之先生

抗がん剤の種類や副作用、緩和ケアに関して、正しい医療情報の見方や信頼度など。

### ▽講演『がんと向き合って』

朝日新聞東京本社写真部デスク 上野 創さん

朝日新聞社入社後、1994年26歳（現在45歳）で精巣腫瘍（両肺への転移）、超大量化学療法治療闘病生活を手記として同社より発刊。サバイバーとしての立場から様々な講演も行っている。

### ▽トークセッション『演者の皆さんに聞いてみよう』

勝俣範之先生、上野 創さん、田畑真由美さん（鹿大 HP がん相談支援 Ns）

坂口（種子島医療センター MSW）

- ・患者さんの食事内容に関すること
- ・どのような相談に対応するのか？
- ・白血病患者より抗がん剤の使用に関して など

### ▽つながるサロン（がん患者さんと家族の交流）

### ▽キャンドルウォーク（上荒田の杜公園を19時～20時50分まで）

その他、チャリティーオークションやライブ

新たな試みとして開催されたこのイベントは、これまでの24時間リレーウォークとは違い、日中は講演会やサロン、トークセッションとイベントは盛りだくさんであった。

私自身もトークセッションのメンバーとして登壇した。短い時間ではあったが、心地よい緊張感の中、とても貴重な時間を過ごすことができた。

夜のキャンドルウォークでは、会場にキャンドルが敷き詰められ、とても幻想的な中を参加者が思い思いにゴールの時間まで歩き続けた。

今回も多くの方との出会いがあり、とても素敵なイベントだったと思う。

また、第2回・3回と参加を続けていきたい。

## サロン種子島について

2階病棟副看護師長 射場 和枝

当院では、平成28年度よりがんサロン「サロン種子島」を、月1回開催しています。

がんサロンとは、がん患者様やそのご家族が集まり、交流や情報交換をする場です。がんサロンでは、参加者同士が話をしたり聴いたりして、体験を共有し共に考えることが出来ます。

当院のがんサロンでは、病院スタッフや外部講師によるミニレクチャーも行っています。以下は、今後のミニレクチャーの予定です。

- 8月 消化に良い食事について（栄養士より）
- 9月 ストレッチ（リハビリスタッフより）
- 10月 ミニ音楽会（看護師他）
- 11月 インフルエンザの予防（看護師より）
- 12月 クリスマスツリーを作ろう（みんなで）

1月 習字の時間（看護師）

2月 たこ焼きを作ろう（みんなで）

3月 野菜を作ろう（みんなで）

日時：毎月第3金曜日、14時～16時

場所：4階小会議室

内容：30分程度のミニレクチャー後、お茶を飲みながらおしゃべり会

がんサロンへの参加は、がん患者様やご家族が自由に判断して決めて頂き、その日その時に集まった参加者が、体験を共有し、共に考える交流と情報交換の場です。当院に通院中の患者様以外でも、参加できます。どなたでもお気軽にお越しください。

### サロン種子島のご案内

☆がん患者と家族のおしゃべりサロン☆

がん患者さんやご家族が、病氣や心の悩み、体験などを気軽に話し合い、思いを共有する場です。

対象者：がん患者さん、ご家族  
(当院の患者さんに限らず参加可能)

内容：お茶を飲みながらおしゃべり

日時：毎月第3金曜日  
14:00～16:00

場所：種子島医療センター  
4階小会議室  
(外科外来でお尋ね下さい)

※参加申込み不要 無料

どなたでもお気軽にお越し下さい。

問い合わせ：種子島医療センター Tel:22-0960  
2階病棟：射場 地域医療連携室：坂口・加世田

## 促通反復療法（川平法）について

リハビリテーション室 作業療法士 宮崎 一成

促通反復療法（川平法）とは、鹿児島大学名誉教授である川平和美教授によって脳卒中患者への新しい治療技術として開発された運動療法です。促通反復療法は患者の意図した運動の実現と反復によって、目標の神経路の再建・強化を行い、麻痺の大きな改善を得ています。日本脳卒中学会により発行されている脳卒中治療ガイドラインにおいて、行うよう勧められる『グレードB』に推奨されており、数々の治療成績を挙げています。

当院においても、実際に川平和美教授を招き、多くのセラピストが実技指導を受けております。また、霧島リハビリテーションセンターでの2週間の研修会へ参加し、実技指導を受けたセラピストもおり、促通反復療法を受けることが可能です。2週間の研修では、全国からセラピストが参加しており、促通反復療法の手技を学んでおります。霧島リハビリテーションセンターの先生方から直接指導していただき、実際に患者様へ治療実践するところまで研修で行うことができました。現在、川平和美先生は東京都渋谷区に「川平先端リハラボ」を開設され、日々治療技術の普及、研究に努められています。

実際に、当院でもこれまで片麻痺治療において難渋することがありましたが、促通反復療法を実践していく中でこれまで時間をかけて行っていた治療を同時に行うことができ、スムーズに治療を進めていくことが可能となりました。また、促通反復療法と振動刺激や電気刺激などを併用して行くと、さらに治療効果が増すという事が研究で明らかになっており、当院でも併用療法を実践し、特に片麻痺上肢治療において効果が大きくみられたことをセラピストは実感しております。

